

1 単元名 「民主主義と多数決の近くて遠い関係」

2 単元の目標

- (1)法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守る。 (知識及び技能)
- (2)民主主義について、理解する。 (知識及び技能)
- (3)法や決まりのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にするためにはどうすればよいか、意見を交流することによってまとめる。 (思考力・判断力・表現力等)
- (4)物事を決めるときの話し合いや議論の様子を振り返り、よい点や問題点を出し合う (思考力・判断力・表現力)
- (5)集団の中での物事の決め方について、よりよいものを考えて、共有し、実践する (主体的に学習に取り組む態度)
- (6)義務を果たして、規律ある安定した世界の実現に努め、具体的に行動する、 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

民主主義や多数決について、改めて考えさせたい教材である。

1次の「みつめる」や「しらべる」では、民主主義では、少数意見をできるだけ尊重することが重要であることや、「好きな案」と「望ましいと判断する案」の違いを理解させたい。また、民主主義の実現のためには自己抑制も必要であることなど、丁寧に抑えながら ESD の学びとのつなげ、自分ごとの学びとしたい。

2次の「ふかめる」や「ひろげる」では、集団での意思決定を体験することで、そのよさや難しさを実感させたい。

(2) 生徒観

第3学年の生徒は各教科の学習内容と関連のある日常生活の事象に関心意欲が高く、毎時間の学習について感じた自分自身の「問い」をまず自分なりの考えで解決しようとする生徒が多い。また課題提示された際に、時間をかけて丁寧に考える生徒が多いので、考える時間を十分に設けると、課題の本質にたどりつくことができる。お互いの考えを共有するために、発言が行いやすいグループの雰囲気づくりを心掛けている。生徒間のコミュニケーション能力は高く、生徒同士で考えを深めあうことができる。

(3) 指導観

本単元は、1次の説明的な読み物と、2次の「確かめよう」という活動を合わせた2時間続きの教材である。

1次の「みつめる」の取り組みとして、「クラスで何かを決定するとき、どんな方法で決定するか」という問いに対して、これまでの自分自身の学校生活を振り返って、「多数決」という決定方法を意識させ

る。教材を通して、民主主義的な多数決の在り方について考えさせる

次に、「しらべる」の取り組みとして「好きな案」と「望ましいと判断する案」の違いについて4人班で話し合い、意見を共有し、chromebookを使いながら、班ごとの意見発表を通して、学級全体で意見を共有する。その際、集団の中での物事の決め方について、様々なケースを想定して考えさせたい。

2次の「確かめよう」では、「ふかめる」での取り組みで「思考力・判断力・表現力等」の活動が盛り上がりさえしたらよいわけではない。「ひろげる」の取り組みとして、民主主義のよさや難しさを実感できるように、班での話し合いの際には、生徒自身がファシリテーターとなって、話し合いの展開をコントロールさせる。対処が必要な場合は、自分の判断がどうだったかに関係なく進んで協力したり、最善の案のために、みんなで知恵を絞る大切さを、話し合いの中で実感させたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

多様性：様々な見方、考え方、感じ方があり、それらが尊重されなければならないということ

公平性：「自分さえよければ」という意識ではなく、持続可能な社会を築くために世代間・世代内で不公平性について根拠とともに判断すること

連携性：お互いのことを知り、理解することから、集団の中で認め合うことや支えあうことが、民主主義社会をつくるうえで大切であること

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力：「好きな案」と「望ましい案」をどう捉えるのか考える。

多面的・総合的に考える力：集団や社会の中で合意形成するとき、大切にすべきことは何かについて考える

未来像を予測して計画を立てる力：民主主義の考え方を理解し、自ら進んで社会に関わることや公での自分の在り方などについて考える

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正：自分たちの世代だけが幸せであることが、将来的にも幸せであるとは限らない。

人権・文化を尊重する：多様な考え方の人を尊重する心を持つことが大切であること

幸福感に敏感になる：お互いの意見を認め合える社会を作り上げることが民主主義につながる

・達成が期待される SDGs

目標 10 人や国の不平等をなくそう

目標 16 平和と公正をすべての人に

目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守る。 ② 民主主義について理解する。	① 法や決まりのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にするためにはどうすればよいか、意見を交流することによってまとめる。 ② 物事を決めるときの話し合いや議論の様子を振り返り、よい点や問題点を出し合う	① 集団の中での物事の決め方について、よりよいものを考えて、共有し、実践する ② 義務を果たして、規律ある安定した世界の実現に努め、具体的に行動する、

5 単元の指導計画(全 16 時間)

5. 単元の指導計画(全時間2時間)

■ 学習活動	○学習への支援	○評価・備考
1 みつめる(10分)[第1次] ○クラスで何かを決定するときに、どんな方法で決定しているかを思い起こす ○集団や社会で何かを決めようとするとき、大切なことは何だろう。「民主主義と多数決の近くて遠い関係」を読んで考えよう	○「多数決がいい」という意見がすぐに出てくると考えられるので、理由や他に考えはないか尋ねる ○簡単に確認して、学びのテーマや教材につなげる	ア②(知技)
2 調べる(30分)[第1次] ○「好きな案」と「望ましいと判断する案」との違いは何だと思えますか。 ○クラスの中で実践できることについて考える	○単純に数的に優位なほうや個人の思いだけで決めるのではなく、全体の視点を持つことが大切であることに気づかせる ○体育大会や文化祭で、学級の取り組みを決める際に、多種多様な考え方を共有しながら物事を決めることの難しさについても考えさせる。	ア①(知技)
3 活動の振り返りをする。	○授業の最初に考えたことを振り返り、自分の考え方がどう変わったかを意識させた	

<p>4 ふかめる(30分)[第2次] ○「砂漠でサバイバル」を読み活動する</p>	<p>○話し合いでは、単純な多数決で決めないようにすることや、誰かの案をそのまま採用せずに各自の考え方を伝えながら話し合うことの重要性に気づかせる。</p>	<p>イ①(思判表) イ②(思判表)</p>
<p>5 ひろげる(20分)2次 ○グループで振り返ったことや、活動してみて気づいたことを発表してください。</p>	<p>○「全員が納得する話し合いになっていたか」という視点を投げかけ、そのためにはどんなことが大切かを考えさせる。 ○互いに尊重しながら合意形成することのよさやその難しさについて気づかせる。</p>	<p>ウ①(主体的) ウ②(主体的)</p>

6. 成果と課題

第2次の授業の最後に配布した表1のワークシートの記述内容から成果と課題をまとめる。

まず、【今日の授業評価】の結果を生徒の回答を元にまとめた。

① 新しい気づきは	あった	少しあった	少しなかった	なかった
ありましたか	96%	0%	4%	0%
② 自分のために	1	2	3	4
なりましたか	75%	21%	0%	96%
③ 今後の生き方	1	2	3	4
に役立ちましたか	57%	32%	11%	0%
④ 今日の資料は	良かった	少し良かった	少し良くなかった	良くなかった
良かったですか	64%	32%	4%	0%

今日の授業の評価から、①新しい気づきはありましたか、96%、②の自分のためになりましたか、75%+21%=96%、③今後の生き方に役に足りましたか、57%+32%=89%、④強の資料は良かったですか、64%+32%=96%で、本実践が生徒にとって、変容をもたらすために有効であったと判断できる。ただ、③や④の1の評価が約6割であったことは、課題である。特に④については、使用資料が印刷資料だけであったので、ICTを活用して動画等を活用することが今後の課題であると考えます。

【今日の感想】の記述内容とESDとの関連に着目して成果と課題をまとめる。

まず、本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)についての記述に着目して成果と課題についてまとめる。「何が必要でいらないか等をみんなで話し合っていて決めていくのは難しいということが分かりま

した。」や「みんなの意見が納得できてとても面白かった。しかし少人数の意見にも納得してしまってどちらも間の意見にしてしまった。」のように、多様性、公平性、連携性の重要性に気付くとともに難しさについて述べている記述が多かった。

次に、本学習を通して育てたいESDの資質、能力についての記述に着目して成果と課題についてまとめる。「『好きな案』と『望ましい案』を考えるときは正解かどうかよりもみんなで生きるためには一人の意見ではなくみんなでより良い案にできるように考えることができて良かった。」「どちらの意見を採用するか迷いつつ、でも最良の意見を出すことが大切だと言うことを学びました。」のように、批判的に考える力、多面的・総合的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力についてできるようになったことを述べている記述が多かった。

【今日の感想】 【今日の授業評価】 【吉岡先生の授業を受けて】	① 新しい気づきはありましたか	あった		なかった	
	② 自分のためになりましたか	1	2	3	4
	③ 今後の生き方に役立ちましたか	1	2	3	4
	④ 今日の資料は良かったですか	良かった		良くなかった	

表1 道徳「砂漠でサバイバル」ワークシート

最後に本学習で変容を促すESDの価値観についての記述に着目して成果と課題についてまとめる。「誰にとってもメリットがあるような決め方は話し合いだと思った。話し合いの中で意見がまとまっていくこともあるので多数決は切り札としての使い方が良いと思った。」「民主主義と多数決は紙一重なんだなと思った。また人の心を読み取る必要性を知った。」「他の人の考えを聞いてみて自分の考えとかなり違うからびっくりしたし、意見の言い合いになってびっくりした。」のように、世代間の公正、人権・文化を尊重する、幸福感に敏感になるについての必要性や意味についてこの学習を通して新たに気づいたことの記述が多かった。

ESD ティーチャーのプログラムに2021年度2022年度と2年間参加して、2021年度は総合の実践、2022年度は道徳の実践を行った。今後の課題として、担当教科の数学でのESDの実践を行うことを目指したいと考えている。



現在の学年終了時に目指す姿

集団や社会の中で合意形成するとき、大切にすべきことについて考え、法を遵守し、公德を重んじようとする判断力を育て、多様な人たちと協働してよりよい社会のための行動を自ら起こすことができる。

地方自治について、詳しく理解したいなあ。
これからの民主政治について真剣に考えていきたい。

社会科「私たちの生活と地方自治」(東京書籍 3年)
地方自治は、住民の生活に身近な民主主義を行う場所であり「民主主義の学校」と呼ばれていることを理解し、自分が住んでいる町や府県の政治に関心を持ち、これからの社会に担い手であることを実感させる。

道徳「民主主義と多数決の近くて遠い関係」
○主に養いたいESDの資質・能力
未来予想力
民主主義の考え方を理解し、自ら進んで社会に関わることや公での自分の在り方などについて考えることが大切である。
批判的に考える力
他者の権利を尊重することが、自分の権利を失うことではないことを考える。
○主に育てたいESDの価値観
世代間の公正
自分たちの世代が幸せであることが、将来的にも幸せであるとは限らない、今から自分たちが行動を起こすことが大切である。

社会科「政治と民主主義」(東京書籍 3年)
現在多くの国では、国民主権の考え方で、国民または国民によって選ばれた代表が権力を行使し、国民全体のために政治を行うという、民主主義(民主政治)がとられていることを理解し、民主主義は個人の尊重を基本に成り立っていることを理解する

基本的人権の重要性について考えていかないと。
戦争のない世界のために、私たち一人一人が努力しないと。

誰かに任せきりにするのではなく、私たち一人一人がこれからの社会を作っていくかなければ。

数学科「数学の世界3(大日本図書)」
中学生のみなさんがこれから生きていく世の中は、民主主義の社会です。ここでは、みんなで議論し合い、相談し合って、きまみや約束事を決めて行動していきます。このような社会が成り立っていくためには論理的な考え方が必要です。数学は、この論理的な考え方を育てるのに適した学問であることを伝える

修学旅行(知覚を題材にした平和学習)
戦争や特攻について、事前学習・現地学習・事後学習を通して正しく理解するとともに、戦争のない世の中をつくるためには一人一人が平和について自分事として考えて、多様な意見や少数意見を尊重したり、学んだことや考えたことを伝えたりする努力が大切であることと実感する。